

自然に学び 自然を守る



農林水産省登録
第23184号

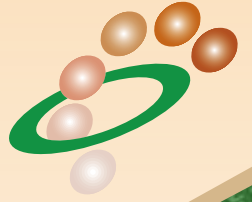
殺菌剤

カンパネラ[®]

水和剤

®はクミアイ化学工業㈱の登録商標

2つの成分が手を取り合い
べと病・疫病をしっかりと防除



適用
拡大

さといもに
使えるようになりました。

さといも





殺菌剤分類 40,M3

- 特長**
- ① べと病・疫病に対して高い防除効果を示し、予防効果と治療効果を備えています。
 - ② ぶどうではべと病に加え、晩腐病・黒とう病の同時防除に有効です。
 - ③ 浸達性と浸透移行性を有し、高い耐雨性を示します。
 - ④ 2つの有効成分の補完作用によってべと病・疫病の多くのライフステージを阻害し、安定した防除効果を発揮します。
 - ⑤ 作用点の異なる2つの有効成分により薬剤耐性菌の発達リスクを抑えます。



適用病害と使用方法

本資料は2024年8月現在の登録内容に基づいています。

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ベンチアバリカルブイソプロピルを含む農業の総使用回数	マンゼブを含む農業の総使用回数										
ぶどう	晩腐病、黒とう病 べと病	1000倍	200~700 ℓ/10a	収穫45日前まで	2回以内	散布	3回以内	2回以内										
きゅうり	褐斑病、べと病	750~1000倍	100~300 ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内				3回以内	3回以内								
キャベツ	べと病			収穫30日前まで	2回以内						5回以内	1回						
はくさい				1回														
メロン	褐色腐敗病			収穫7日前まで	5回以内								3回以内	5回以内				
すいか		1000倍		2回以内														
かぼちゃ	疫病、べと病	収穫21日前まで		2回以内	3回以内										2回以内			
トマト	疫病	収穫前日まで																
たまねぎ	白色疫病、べと病	750~1000倍		収穫7日前まで												3回以内	5回以内	5回以内
ねぎ	べと病、黒斑病			収穫14日前まで														
ばれいしょ	疫病	1000倍		収穫7日前まで		5回以内	2回以内	10回以内 (無人航空機散布は3回以内)										
さといも		16倍	1.6~3.2ℓ/10a	2回以内					無人航空機による散布	2回以内								

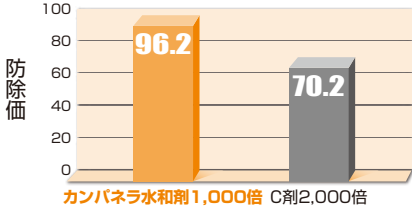
上手な使い方(ぶどう)(中部地方A県の場合)



※果粉溶脱防止のため、カンパネラ水和剤の使用は小豆大期までが適期です。

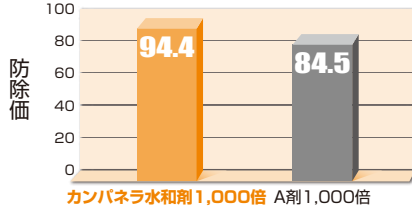
試験事例

● さといもの疫病に対する試験事例



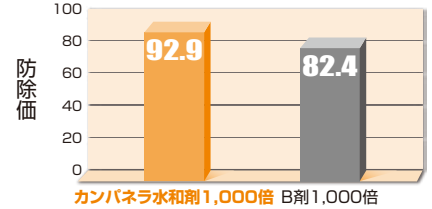
■ 試験年度/平成30年度
■ 試験場所/鹿児島県農業開発総合センター
■ 品 種/石川早丸 ■ 発生状況/少発生
■ 区制/面積/1区3.3㎡(1.1m×3.0m)10株 3連制
■ 植 付 日/4月5日
■ 処 理 日/6月27日、7月4日(生育期)
■ 処理方法/展着剤(2000倍)を加用し、300ℓ/10aの割合で散布。
■ 調 査 日/7月4日(最終散布前)、7月13日(最終散布9日後)
■ 調査方法/各区10株の全葉について発病指数別に調査し、発病率、発病度を算出した。
■ 無処理発病度/6.8

● ぶどうの晩腐病に対する試験事例



■ 試験年度/平成24年度
■ 試験場所/日本植物防疫協会 山梨試験場
■ 品 種/巨峰 22年生 ■ 発生状況/中発生
■ 区制/面積/1区19.8㎡(2.2m×9.0m)3反復
■ 処 理 日/6月27日(小豆大~大豆大期)、7月6日(大豆大~果実肥大期)、17日(果実肥大期)
■ 処理方法/250ℓ/10aの割合で散布。
■ 調 査 日/8月30日(最終散布44日後)
■ 調査方法/各区40果房について発病程度別に調査し、防除度を算出した。
■ 無処理発病度/8.5

● たまねぎのべと病に対する試験事例



■ 試験年度/平成26年度
■ 試験場所/日本植物防疫協会 茨城研究所
■ 品 種/O1黄 ■ 発生状況/小~中発生(接種)
■ 区制/面積/1区4.8㎡(3.0m×1.6m)100株 3連制
■ 定 植 日/11月19日
■ 処 理 日/5月7日、14日、24日
■ 処理方法/展着剤(5000倍)を加用し、200ℓ/10aの割合で散布。
■ 調 査 日/6月1日(最終散布8日後、倒伏始め)
■ 調査方法/各区75株について葉身発病程度別に調査し、防除度を算出した。
■ 無処理発病度/8.5

使用上の注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。
- 散布量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせて調節してください。
- 無人航空機で散布する場合は次の注意を守ってください。
 - ① 散布は散布機種の散布基準に従って実施してください。
 - ② 散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - ③ 散布中、薬液が漏れないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
 - ④ 散布薬液の飛散によって自動車の塗装などに被害を与えるおそれがある等、各分野に影響があるので、散布区域の諸物件に十分留意してください。
 - ⑤ 散布終了後、機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。また使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
- 石灰硫黄合剤、ホルドール液との混用はさけてください。
- ホルドール液との7日以内の近接散布は薬害を生ずるおそれがあるのでさけてください。
- 極端な高温多湿条件下では、軟弱幼虫に薬害のおそれがあるので注意してください。
- あんずに対して薬害を生じることがあるので、付近にある場合はかからないように注意してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場

- 合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の担当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用してください。作業後は直ちに身体を洗い流し、洗濯うがいをするともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようし、施用した作物等との接触をさけてください。
- 夏期高温時の使用をさけてください。
- 使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。
- 空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 保管…高温下及び湿気を吸うと分解して効力が低下するので、直射日光をさけ、冷涼・乾燥した場所に密封して保管してください。

● 使用前にはラベルをよく読んでください。 ● ラベルの記載以外には使用しないでください。 ● 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ● 防除日誌を記載しましょう。